


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2019 年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	森田 直樹	会員番号	0034759	
申請者の所属・職名	東京大学 定量生命科学研究所 免疫・感染制御研究分野 助教			
出席会議名	International Congress of Mucosal Immunology 2019			
発表論文タイトル	GPR31-dependent dendrite protrusion of intestinal CX ₃ CR1 ⁺ cells by bacterial metabolites			

実施結果:

この度は2019年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に選出していただき、誠にありがとうございました。岸本 忠三先生をはじめとした選考委員の先生方ならびに推薦して下さった竹田 潔先生にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

本 Travel Award のご支援の下、私は2019年7月16日から20日の5日間、オーストラリアのブリスベンにて行われた”International Congress of Mucosal Immunology (ICMI) 2019”に参加させて頂きました。本学会は Society for Mucosal Immunology による主催の下、世界各国から著名な研究者が集まり、腸管や呼吸器系を含む粘膜免疫に関する最新の知見を報告する国際学会です。私はこれまでに腸内細菌由来の代謝産物が腸管貪食細胞に与える影響を研究してきており、得られた研究成果に関して各国の粘膜免疫学者とディスカッションしたいと考え、本国際学会へ参加させて頂きました。

私はポスターセッションにて「GPR31-dependent dendrite protrusion of intestinal CX₃CR1⁺ cells by bacterial metabolites」という演題で発表をさせて頂きました。昨今の粘膜免疫の分野では腸内細菌由来の代謝産物、とりわけ短鎖脂肪酸が免疫系に与える影響が注目される中で、これらの短鎖脂肪酸異なる新たな腸内細菌由来代謝産物であるピルビン酸及び乳酸が免疫機能を制御するという、私の発表内容は多くの研究者の注目を引き各国の粘膜免疫研究者から多くの質問やコメントを受けることができました。初めての国際学会の参加で緊張しながらも、自身の研究成果を世界の研究者と直接ディスカッションできたことは、普段の研究生活では味わうことのできない特別な達成感と高揚感を感じることができる非常に貴重な体験となりました。また多くのポスター発表がある中で、ICMI 2019 Poster Award を受賞することができました。本賞の受賞を励みに、より一層深い粘膜組織における免疫細胞機能の理解に貢献できるよう、研究に邁進する所存です。

末筆になりますが、この度は身にあまる貴重な体験をさせて頂き誠にありがとうございました。この経験を糧に、今後も免疫学のさらなる発展に貢献できるよう精進して参ります。

注) 本参加記は手書きでなく、ワープロを使用して作成してください。